腐女子と猟奇的恋愛物語志向性

○山岡 重行

(聖徳大学)

キーワード: 腐女子, 腐女子尺度, 猟奇的恋愛物語

“Fujyoshi” and Bizarre love stories

YAMAOKA Shigeyuki

(Seitoku Univ.)

Key words: “Fujyoshi”, “Fujyoshi” scale, Bizarre love stories

目 的

男女の恋愛ではなく、主に美少年同士での恋愛（ボーイズラブ：以下 BL）を扱ったマンガや小説を好む者を「腐女子」と呼ぶ。山岡(2011)は、純愛物語への動機づけと大学生活の欲求不満の強さと、異性との接触頻度や親和傾向の低さが腐女子の行動傾向やBL志向を強めることを報告している。

「腐女子」という呼称は腐女子自身が自分のBL志向を自嘲的に語ったところから生まれたと言われている。なぜ、腐女子は自嘲するのだろうか。腐女子は男性同性愛というだけでなく強姦・輪姦・拉致・監禁などの異常な性愛の描写を含んだ作品を好むという指摘がある（堀,2009,溝口,2000）。これらの指摘が正しければ、腐女子は異常な行為を過剰な愛情の発露として認識し、そのような作品を楽しんでしまう自分の志向を非常識で異常だと認識していると考えられる。本研究の仮説は「腐女子は非腐女子よりも、主人公が苦しめられるような猟奇的で異常な描写を含む作品を好む」である。

方 法

調査対象者 首都圏私立大学2校の男女大学生308名（女性217名、男性91名；平均年齢19.37歳、SD=2.651）。

猟奇愛物語志向性尺度の作成 本研究の仮説を検討するために、猟奇的な愛情表現や登場人物の被虐場面を好む傾向の測度として猟奇愛物語志向性尺度を作成した。BL作品を好み「腐女子」を自認する8名を対象に予備調査を行った。自由記述により「BL作品の中で好きなジャンルや設定と、その魅力」について回答を求めた。その結果、純愛作品よりも監禁や強姦などを含んだ猟奇的な作品に魅力を感じるという回答が多かった。得られた回答を整理して、猟奇的な物語やキャラクターを好む程度に関する25の質問項目を作成し、猟奇愛物語志向性尺度とした。ただしBL志向性と区別するために、BLを意味する表現は排除した。回答方法は、「1：全くそう思わない、2：そう思わない、3：どちらでもない、4：ある程度そう思う、5：とても強くそう思う」の5件法である。

手続き 通常の授業時間の一部を利用して質問紙調査を行った。調査対象者に腐女子尺度(山岡,2011)と猟奇愛物語志向性尺度を配付し、回答記入後に回収した。調査は2011年6月～7月に実施した。

結 果 と 考 察

猟奇愛物語志向性尺度に主因子法プロマックス回転の因子分析を行った。その結果、次の3因子が抽出された。第1因子は、暴力で愛する相手を支配するような物語に関する項目に負荷量が高く、暴力支配愛因子と解釈した。第2因子は、幸福な恋愛関係を成就させないような物語に関する項目に負荷量が高く、バッドエンド因子と解釈した。第3因子は、好きなキャラクターが虐待される場面に関する項目に負荷量が高く、被虐キャラ因子と解釈した。第1因子に負荷量が高か

った10項目の平均値を暴力支配愛得点とした($\alpha=.959$)。第2因子に負荷量が高かった9項目のうち、1項目は第3因子にも負荷量が高かったので除外し、8項目の平均値をバッドエンド得点とした($\alpha=.881$)。第3因子に負荷量が高かった6項目のうち、2項目は第2因子にも負荷量が高かったので除外し、4項目の平均値を被虐キャラ得点とした($\alpha=.935$)。また25項目の合計点を猟奇愛物語志向性得点($\alpha=.959$)とした。

腐女子尺度の操作チェックとして、「あなたはBL（男性同士の同性愛）作品を好んで見ますか」という質問に「はい・いいえ」の2件法で回答させた。腐女子尺度の平均点で調査対象者を高群と低群に分けたところ、BL作品を好んで見ると回答した42名中40名(95.2%)が腐女子尺度高得点群だった。この42名を腐女子群、腐女子尺度高群のうちBL作品好きと回答しなかった83名をオタク群とした。

腐女子群・オタク群・腐女子度低群の猟奇愛物語志向性尺度得点、および3つの下位尺度得点の平均点に1要因分散分析を行った。その結果、いずれの変数でも有意な主効果が認められ、LSD法の多重比較の結果、腐女子群・オタク群・腐女子度低群の順に平均点が高いと言える。しかし、腐女子群でも暴力支配愛やバッドエンドは中点の3点未満であり、腐女子は猟奇愛志向性を有しているとは明言できない。そこで、暴力愛志向性得点、バッドエンド志向性得点、被虐キャラ志向性得点、それぞれの得点が2.00以下の者を志向性なし群、2.00点以上4.00点未満を中間群、4.00点以上を志向性あり群の3群に分け人数を比較した。腐女子低群もオタク群も、猟奇愛志向性あり群はほとんどいない。腐女子群では猟奇愛志向性あり群が増えているが、猟奇愛志向性なし群がある程度の割合で存在しており、堀(2009)が主張するように猟奇愛志向性が腐女子全員に共通する志向性であるとは言えない。

腐女子群の中でも志向性あり群が最も多い被虐キャラ志向性に注目し、被虐キャラ志向性なし群・中間群・あり群の腐女子尺度と3つの下位尺度得点を1要因分散分析により比較した。腐女子尺度得点とBL志向性得点で有意な主効果が認められた。被虐キャラ志向性あり群は明らかに腐女子尺度得点とBL志向性得点が高いのである。つまり、猟奇愛志向性は、BL作品を好む腐女子群の中でも特に腐女子傾向やBL志向性が高い上級腐女子に特有の志向性なのである。仮説はこの上級腐女子でのみ肯定されたと言えることができる。

どんな領域でも、人はよりおもしろい作品やより刺激的な作品を求める。この欲求のBLにおける到達点の一つが猟奇愛なのだろう。強姦や監禁は現実世界では明らかな犯罪である。このような行為を扱う物語は、通常の人間にとってはサイコパスの犯罪ドラマである。しかし上級腐女子になると、人をそのような異常な犯罪行為に駆り立ててしまうほどの愛情、人を狂わせるまでの過剰な愛情を読み取り、恋愛物語として享受するようになるのである。腐女子の自嘲の原因の1つは、この猟奇愛志向性なのだと解釈できる。